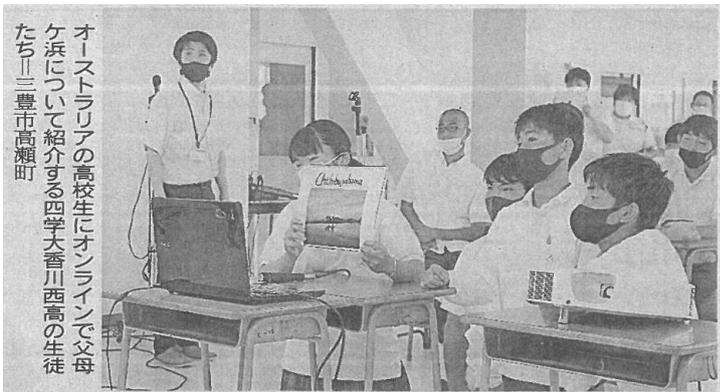


2021年6月18日

オーストラリア高校生との交流会

2021年6月1日(火)本校普通科特進コース3年生(20名)とオーストラリア高校生とのオンラインによる交流授業を行う様子が取材され、2021年6月17日(木)四国新聞 地域総合欄に掲載されました。

なお、同校とは今後週1回(6月中)のペースでオンライン交流授業を行う予定です。



オーストラリアの高校生にオンラインで父母ケ浜について紹介する四学大香川西高の生徒たち。三豊市高瀬町

豪高校と画面越し交流

四学香川西高で週1回

自己紹介や地域をPR

三豊市高瀬町の四国学院大香川西高校(草薙校長)の生徒が今月、オーストラリアで日本語を学んでいる高校生と週1回、オンラインによる交流授業を行っている。新型コロナウイルス禍で海外との生徒同士の交流が難しい中、市国際交流協会(稲田覚会長)が英語教育に力を入れている同校に提案し、橋渡しをして実現した。

交流相手は、オーストラリア東部・ブリスベンに近いタンポリンマウンテン高の生徒。市国際交流協会が

同校で日本語を教えている女性と縁があり、女性の夫が四学大香川西高の卒業生ということも分かって話がとんとん拍子に進んだ。

交流授業の初回は1日にあり、四学大香川西高から3年生20人が参加。ビデオ会議アプリ「Zoom(ズーム)」を使って、グループごとに自己紹介や住んでいる地域のPRを英語で行った。

生徒たちは自己紹介で、京都は寺院、大阪はたこ焼きなど自分の出身地について名所や名物を交えて説明。スケッチブックに描いた絵や地図を掲げながら、香川県や三豊市の位置を示し、父母ケ浜や紫雲出山などの地元の観光スポットについてアピールした。

一方、オーストラリアの生徒たちは、同国の海や動物、食べ物などを日本語で紹介。香川の生徒から「カウガルーは本当に立って闘うんですか」などの質問が出るなど、笑顔いっぱい交流が繰り広げられた。

授業後、森本彩椰さん(17)は「ネイティブな英語の発音ができなくても、伝えようとする意思をくみ取って反応してくれたのがうれしかった。楽しい時間になった」と話していた。

2021年6月17日(木) 四国新聞掲載